

# 平成19年度における大竹市の決算状況

## 1 収入及び支出の状況

一般会計における歳入総額は、115億1,532万9,470円で、対前年度比4.8%の増、歳出総額は、113億4,228万5,820円で、同比5.5%の増となり、歳入・歳出決算額とも前年度を上回りました。

形式収支は、1億7,304万3,650円の収入超過となりましたが、翌年度へ繰り越すべき財源である、4,337万5,500円を差し引いた残額、すなわち実質収支は、1億2,966万8,150円の黒字となりました。

### ○歳入の状況

財源の根幹となる市税は、個人市民税が約2億9,172万円、法人市民税約1億7,507万円、固定資産税が約5,088万円増加した結果、市税全体では、9.0%、約5億46万円の増となりました。また、退職手当基金積立金の廃止や土地取得助成金の財源として財政調整基金を繰り入れたため、繰入金は621.2%、約4億3,152万円の増となりました。

一方で、三位一体の改革の影響などにより、地方交付税が22.8%、約2億597万円の減、地方譲与税が68.0%、約2億2,488万円の減となっています。

### ○歳出の状況

歳出は、まちづくりの基本姿勢「三つの大切」「市民を大切に」「大竹っ子を大切に」「先人の蓄積を大切に」のもと第四次大竹市総合計画の実施計画で掲げる3つの重点施策

- ・「みんなのまち」への市民自治づくり
- ・子育て・子育てのための環境づくり
- ・産業振興による魅力ある都市づくり

を基軸とした事業に取り組みました。

#### ①「みんなのまち」への市民自治づくり

市内に住んでいる人だけでなく、市内に働く人、買物をする人、通学をする人など、大竹市に関わるすべての「市民」の皆さんが、様々な形で市政に関わり、「サービスの担い手」となることが、市民生活の向上や活力につながるという視点に立って事業を行いました。

具体的な事業としては、自主防災組織の育成（事業費113万円）やコミュニティづくり推進協議会の活動助成（事業費260万円）などを行いました。また、市民の積極的な議会傍聴を促すために、老朽化していた本会議場

会議の放送・録音設備等を更新（事業費526万円）しました。

## ②子育て・子育てのための環境づくり

これからの大竹の「まち」をつくっていく「人」が集う魅力ある「まち」であるために、次世代を担う子どもたちが安心して健やかに育ち、育てることができるような仕組み・環境づくりを進めました。

具体的には、安心して子どもを育てる環境づくりとして、**放課後児童クラブ事業**（事業費2,294万円）や**子育て支援センター運営事業**（事業費494万円）などを行いました。保健・医療面での環境づくりとしては、**乳幼児等医療助成事業**（事業費3,667万円）や**母子保健指導事業**（事業費216万円）などの充実を図りました。また、次世代を担う人材育成のため、沖縄県豊見城市の生徒との交流を目的とした**中学生交歓交流事業**（事業費142万円）を行いました。

## ③産業振興による魅力ある都市づくり

大竹市の持つ産業基盤や高度な技術力など、それぞれの時代のなかで先人たちが築いてきた「財産」を活かし、商工業をはじめとする産業の振興に取り組みました。

具体的な事業として、**工場設置等奨励事業**（事業費3億499万円）では大竹工業団地への設備投資を促しました。

また、**漁港施設の改良・改修事業**（事業費4,256万円）、**集落営農担い手育成事業**（事業費56万円）や**ひろしまの森づくり事業**（事業費515万円）など農林水産業の振興に取り組みました。

この3つの重点施策のほか、病気や介護の予防や福祉施策、市民の安心・安全、快適な生活環境、市民サービスの向上などの事業にも取り組みました。

## ④「駐留米軍等再編交付金事業」について

在日米軍の再編により負担が増える大竹市に対して平成19年度から平成30年度まで12年間交付される予定の「再編交付金」により、平成19年度は**阿多田診療所基金積立事業**（事業費7,000万円）及び**AED（自動体外式除細動器）設置事業**（事業費459万円）を行いました。

※事業費は普通建設事業費（事務費等を含む）ベースで算定し、整数未満を端数処理しています。